

◎報告

アンケート調査による温泉療法の評価
—遠隔地からの入院患者を対象に—西村 伸子, 寺崎 佳代, 山本 貞枝, 吉尾 慶子, 中村寿美江
谷崎 勝朗¹⁾

岡山大学医学部附属病院三朝分院看護部

¹⁾内科

要旨：1999年4月～12月の9ヶ月間の遠隔地からの入院患者80名（疼痛性疾患47例，呼吸器疾患33例）を対象に，岡大三朝分院に来院した動機，入院前の状態，温泉療法の効果，薬剤の変化，退院決定の動機等について退院前にアンケート調査を行い検討を加えた。対象症例の年齢は60才以上の高齢者が多く，入院期間は1ヶ月～2ヶ月未満が多い傾向であった。入院前の状態では，今までの治療に不満，限界を感じて来院している症例が71例（88.7%）を占めていた。地域別では広島，大阪，京都，兵庫からの来院が多く，その他18都府県に及んでいた。アンケート結果では，疾患別による若干の傾向と，温泉療法に対する評価として症状の改善が見られ，また，使用薬剤の減量の可能性が示唆された。

索引用語：遠隔地，温泉療法，アンケート，呼吸器疾患，疼痛性疾患

key words：distant area, spa therapy, questionnaire, respiratory disease, pain disease.

はじめに

当院は、ラジウム含有量の多い三朝温泉を利用した温泉プール訓練に加え、良質の粘土を泥状にして熱したものを布に包み湿熱の効果をねらった鉍泥湿布療法等を行っている。この温泉プール訓練、及び鉍泥湿布療法等の温泉療法は、薬物療法と併用し、気管支喘息、肺気腫等の慢性閉塞性呼吸器疾患、またリュウマチ、変形性膝関節症、腰痛症等の慢性疼痛性疾患に有効であることが報告されている。¹⁾²⁾³⁾

近年、当院の温泉療法目的の入院患者は、県内よりも県外者が増加しており⁴⁾、疾病増患の予防に、さらにコントロールのために、2回、3回と再入院してくる症例が増えている。これらの現状を把握するため、遠隔地である県外の入院患者に、

当院に来院した動機、何の治療がよかったか、効果があったかどうか等退院前にアンケート調査を行った。

調査方法

1. 調査期間：1999年4月～12月
2. 対象及び方法

温泉治療を目的に鳥取県外から来院した入院患者80例に、退院前にアンケート用紙記入及びインタビューを行った。

結果

対象者の背景は（表1）、性別では男性が35例、女性が45例であった。年齢別では、10才代、20才代、30才代が1例ずつであり、40才代、80才以上が3例ずつ、50才代が15例、60才代、70才代が28

例ずつであった(図1)。疾患別では気管支喘息、肺気腫等の慢性閉塞性呼吸器疾患が33例、リウマチ、膝痛、腰痛等の慢性疼痛性疾患が47例であった。入院期間は1ヶ月未満が7例、1ヶ月～2ヶ月未満が35例、2ヶ月～3ヶ月未満22例、3ヶ月以上16例であった(図2)。地域別では、広島16例、大阪、京都それぞれ12例、兵庫が11例その他18都府県に及んでいた。

アンケートの結果では(表2)、当院に入院するまでの治療に対して、治療を受けたがよくなる

表1. 対象者の背景

		呼吸器(33例)	疼痛(47例)	合計(80例)
性別	男	19	16	35
	女	14	31	45
年齢	10代		1	1
	20代	1		1
	30代		1	1
	40代		3	3
	50代	10	5	15
	60代	12	16	28
	70代	9	19	28
	80代	1	2	3
入院期間	1か月未満	3	4	7
	1-2か月未満	18	17	35
	2-3か月未満	10	12	22
	3か月以上	2	14	16
県別	鳥根	1		1
	岡山	2	6	8
	広島	6	10	16
	兵庫	5	6	11
	大阪	7	5	12
	京都	1	11	12
	奈良		1	1
	福岡		1	1
	香川		1	1
	愛媛	1		1
	愛知	1		1
	静岡	1		1
	東京	2	2	4
	神奈川	3	2	5
	千葉		1	1
	長野	1		1
	栃木	1	1	2
新潟	1		1	

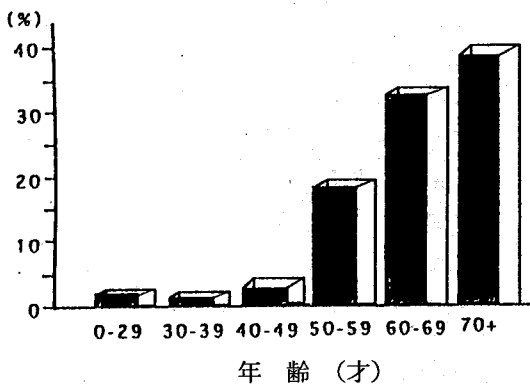
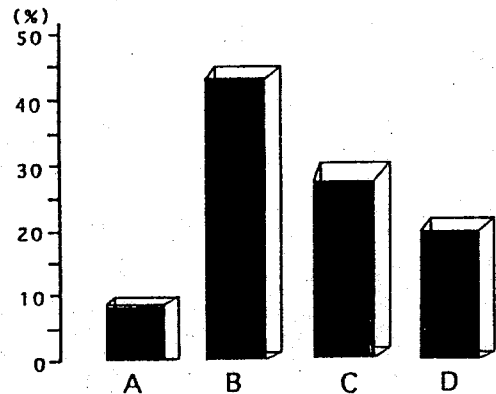


図1. 対象症例の年齢

ないが30例、治療でよくなったが満足できる状態でないが41例、治療でよくなった3例、治療を受けたことがない6例であった(図3)。当院を訪れた動機では、入院既往があり2回目が10例、3回以上が21例、新聞、雑誌、テレビ等のマスコミからが19例、知人からの情報が30例であった(図4)。次に治療について、最も良かった治療では(1人2項目)、温泉プールでの水中運動が72例、鉱泥湿布が52例、吸入療法、リハビリテーションがそれぞれ15例、飲泉療法、その他温泉入浴、熱気浴等が3例ずつであった(図5)。薬物療法について、薬はあまり使いたくないが70例、効果があればいくらあってもよいが10例であった。温泉療法を受けて内服薬が変化したかの問いに減少したが24例、変わらないが38例、増えたが18例であった。温泉療法の効果では症状が改善したが75例、変わらないが5例であった。退院決定の動機については、症状が改善したからが42例、症状は残っているが仕事、家庭の事情で退院するが30例、その他転院等が8例であった。退院後の温水プール治療について、プール治療を継続するが44例、温水プールがないので継続できないが30例、その他が6例であった。



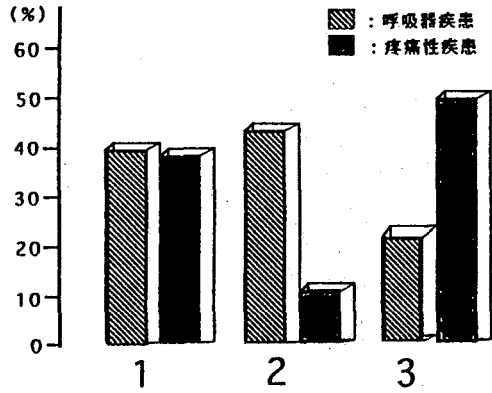
入院期間

A. 1ヶ月以内, B. 1ヶ月-2ヶ月, C. 2ヶ月-3ヶ月, D. 3ヶ月以上

図2. 対象症例の入院期間

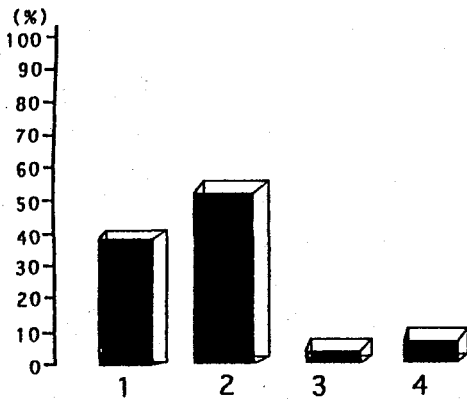
表2. アンケート結果

	呼吸器	疼痛	合計
入院までの状態			
近医で治療を受けたが良くならない	18	12	30
治療でよくなったが満足できる状態ではない	11	30	41
治療でよくなった	1	2	3
治療を受けたことがない	3	3	6
当院までのようにして廻りましたが			
以前に入院したことがある	4	6	10
2回目	9	12	21
3回以上	14	5	19
新聞、雑誌、テレビ	7	23	30
知人から			
治療について			
最も良かった治療			
温泉プールでの水中運動	30	42	72
(2項目まで)			
鉍泥湿布	16	36	52
吸入療法	15		15
飲泉療法	1	2	3
リハビリテーション	3	12	15
その他(温泉、熱気浴等)	1	2	3
薬物療法について			
薬はあまり使いたくない	28	42	70
効果があればいくらあってもよい	5	5	10
薬物療法を続けて内服薬が変わりましたか			
薬の量が減った	16	8	24
変わらない	12	26	38
薬の量が増えた	5	13	18
温泉療法の効果			
症状が改善した	31	44	75
変わらない	1	4	5
退院決定の動機			
症状が改善した	18	24	42
仕事、家事の事情	12	18	30
その他(転院)	3	5	8
退院後の温泉プール継続について			
プール治療を継続する			
1回/w	5	5	10
2回/w	10	14	24
3回/w以上	7	3	10
温水プールがないので継続できない	6	22	30
その他(転院)	3	3	6



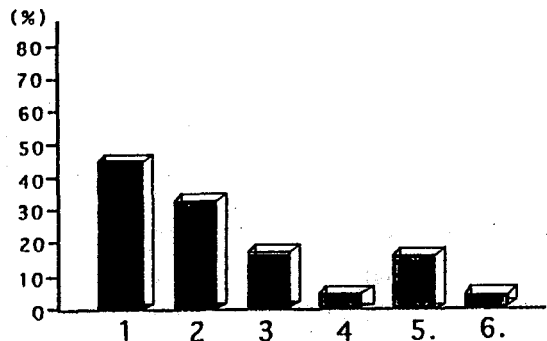
1. 以前に入院したことがある
2. 新聞、雑誌、テレビ
3. 知人から

図4. 当院へ入院した理由



1. 近医で治療を受けたが良くならない
2. 治療で良かったが、満足できる状態ではない
3. 治療で良かった
4. 治療を受けたことがない

図3. 入院までの状態



1. 温泉プールでの水中運動
2. 鉍泥湿布
3. 吸入療法
4. 飲泉療法
5. リハビリテーション
6. 熱気浴

図5. 有効と思われた温泉療法の種類

考 察

1999年4月～12月の9ヶ月間に、温泉治療目的で遠隔地から入院治療で来院した患者は80例であり、その背景は、性別では女性が多く45例、男性は35例であった。年齢別では、70才代が31例で、38.7%を占めており、次いで60才代が28例で35%であり、60才以上の高年齢が多い傾向であった。疾患別では、リウマチ、膝痛、腰痛等の慢性疼痛性疾患が47例でやや多く、気管支喘息、肺気腫などの慢性閉塞性呼吸器疾患が33例であった。次に、入院期間は、1ヶ月～2ヶ月未満が最も多く35例、2ヶ月～3ヶ月未満22例、3ヶ月以上が16例であった。地域別では、最も多い県が広島県の16例であり、ついで大阪、京都、兵庫が多く18都府県に及んでいた。疾患別に比較すると、来院の地域に傾向が見られ、疼痛性疾患は、中、四国、近畿地方からの来院が多く、呼吸器疾患は近年、温泉療法を取り入れた研究、治療がなされ、その結果、新聞、雑誌、テレビ等から情報を得て全国各地からの来院者が増えている傾向であった。

アンケート結果では、当院に入院するまでの治療に対して、近くで治療を受けたがよくならないが30例、治療で良くなったが満足できる状態でないが41例であり、今までの治療に不満、限界を感じて当院を訪れている症例が、71例、88.7%を占めており、薬物療法を中心とした治療の限界が示唆された。当院を訪れた動機については、2回以上の再入院が最も多く31例、知人からの情報が19例であった。これを疾患別に見ると、疼痛性疾患は、知人からが49%であり、呼吸器疾患は、マスコミによる情報が42.2%を占めていた。効果を感じた治療については、温泉プールでの水中運動が最も多く45%を占め、ついで鉱泥湿布療法が32.5%であり、また疾患別では呼吸器疾患では吸入療法、疼痛性疾患では機能訓練中心のリハビリテーションが好評であった。温泉療法の効果については、症状が改善した例が75例で93.7%を占め温泉療法が有効であったことが示された。薬物療法に対する考えでは、薬は余り使いたくないと思っている症例が圧倒的に多く70例で、87.5%を占めて

おり、当院の温泉療法に期待して来院していることが示唆された。そして、温泉治療後の薬剤の変化では、変わらないが38例、減少したが24例、増えたが18例であった。減少した症例には、長年内服していたステロイド剤あるいは鎮痛剤が温泉療法の併用により減量あるいは不要となった例も見られた。増えた症例については、高齢者が多く複数の疾患を合併していることと、入院の機会に精査を受け疾患が判明し薬剤が追加になることも一因になっていた。退院決定の動機では、症状が改善した症例が42例、52.5%を占めており、症状は残っているが仕事、家庭の事情で退院する症例が30例、37.5%であった。仕事や家庭の事情で退院する症例は、温泉療法は薬物療法に比べ効果出現までに期間がかかるため、有職者及び主婦は長期入院が困難となり、治療途中でやむなく退院となるためと考えられた。退院後の温水プールでの治療継続の有無については、継続するが44例、継続が困難であるが30例であった。

ま と め

鳥取県外の遠隔地からの入院患者80例を対象に、その背景因子について検討を加えた。①対象症例の年齢は、70才以上及び60-69才の年齢層が最も多い傾向が見られた。②入院期間は、1ヶ月～2ヶ月の間が最も多く、また、呼吸器疾患では、より遠い地域からの入院症例が多い傾向が見られた。③当院への入院の理由では、呼吸器疾患では新聞、テレビの情報、また疼痛性疾患では知人からの情報による場合が多い傾向が見られた。④温泉療法の種類では、温泉プール水中運動、および鉱泥湿布療法の効果が高く評価された。温泉療法に対する評価としては、薬物療法のみでは十分な治療効果の見られない症例に対し、温泉療法による症状の改善が見られ、また、使用薬剤の減量の可能性が示唆された。

参考文献

1. 谷崎勝朗, 光延文裕, 御船尚志, 他; 慢性閉塞性呼吸器疾患に対する温泉療法の臨床的評価. 岡山大学三朝分院研究報告 69; 1-8, 1998.

2. 岡本 誠, 芦田耕三, 山本一彦, 他 ; 腰痛症に対する温泉療法の効果. 岡山大学三朝分院研究報告 68 ; 51-58, 1997.
3. 森永 寛 ; 三朝温泉地療養の効果. 三朝温泉誌 ; 158-166, 1982.

Evaluation of spa therapy by questionnaire. Characteristics of patients from distant areas.

Nobuko Nishimura, Kayo Terasaki, Sadae Yamamoto, Keiko Yoshio, Sumie Nakamura, and Yoshiro Tanizaki¹⁾

Nursing Division, ¹⁾Division of Medicine, Misasa Medical Branch, Okayama University medical School.

Clinical evaluation of spa therapy was examined in 80 patients with respiratory disease and with joint pain including lumber pain, who came from distant areas (outside Tottori prefecture) and were admitted at

4. 谷崎勝朗, 御松尚志, 光延文裕, 他 ; 慢性閉塞性呼吸器疾患の治療における温泉療法の位置づけ, 最近5年間の入院症例520例を対象に. 岡山大学三朝分院研究報告691-7, 1997.

Misasa Hospital by questionnaire in relation to a motive of admission, effects of spa therapy, dose of medication, a motive of discharge. In many of these patients, the age was over 60 years and duration of their admission was from two to three months. Seventy-one (88.7%) of the 80 patients were admitted at our hospital because they were not satisfactory for the treatment of asthma which they had before. The number of patients from Hiroshima, Osaka, Kyoto, and Hyogo, prefectures was larger than the number from other distant areas. The results of the questionnaire suggest that improvement of symptoms and reduction of drugs used are expected by spa therapy.